

事務事業 No./名称	■サービス部門 市民-21 □支援部門		漁港施設管理運営事業				
主管課	産業振興課	関連課	道路整備課				
分野名	産業振興						
目標 (目標値)	市民生活に密着した形での沿岸漁業の振興 つくり育てる漁業、資源管理型漁業等による漁業経営の安定及び後継者の育成						
人口等のデータ	データ区分	22年度	21年度	20年度	備考		
	人口	177,161人	176,669人	176,484人	・各年4月1日 (住民基本台帳)		
	世帯数	78,812世帯	78,131世帯	77,430世帯			
運営資源状況	事業の対象者数						
	決算値(千円)	278,570	412,312	211,636			
	(国・県)	198,430	295,068	139,521			
	(負担金等)	2,007	1,184	344			
	(一般財源)	78,133	116,060	71,771			
	人員配置数	1.8人	1.0人	1.9人			
	人件費(千円)	16,483	9,185	18,281			
事務事業運営経費	協働のパートナー						
	総事業費(千円)	295,053	421,497	229,917			
	市民1人当りの経費(円)	1,665	2,386	1,303			
ベンチマーク (県内外自治体や民間団体との比較値)	対象者1人当りの経費(円)						
	団体名						
指標	評価	年度	21年度	22年度	23年度	24年度	最終年度(年度)
競争入札制度の採用	◎	目標値	2業務	2業務	2業務	2業務	2業務
		実績値	6業務	6業務			

中事業に含まれる小事業の評価(⇒個別事業の概要は裏面)

評価の視点	①効率性	事業費や人件費に削減余地はないか。	②妥当性	事業の目的と政策・施策体系の目標とが整合しているか。法的な根拠や公的関与の妥当性はあるか。				
	③有効性	事業の成果が得られているか。事業を休止・廃止した場合影響があるか。	④公平性	受益機会が偏っていないか。受益者負担は公平・公正か。				
小事業名	H22決算値	評価	適切=○、要改善=△(評価の視点を参照)	⇒	方向性	A:充実・拡大 B:現状継続 C:改善・見直し D:統合縮小 E:廃止・休止		
漁港施設管理事業	2,108千円	①効率性 ○ ②妥当性 ○ ③有効性 ○ ④公平性 ○		⇒	□A	■B	□C □D □E	
	事業の概要	漁港施設維持運営計画に基づき、腰越漁港の維持管理を行うとともに、腰越海岸の飛砂防止のための海浜整地業務を行った。						
漁港施設整備事業	270,276千円	①効率性 ○ ②妥当性 ○ ③有効性 ○ ④公平性 ○		⇒	■A	□B □C □D □E		
	事業の概要	腰越漁港改修整備事業として、22年度は南防波堤、防波護岸、護岸などの築造及び防砂堤実施設計などを行った。						
鎌倉地域漁港対策事業	6,186千円	①効率性 ○ ②妥当性 ○ ③有効性 ○ ④公平性 ○		⇒	■A	□B □C □D □E		
	事業の概要	鎌倉漁港対策協議会を6回開催し、鎌倉地域の漁港建設のあり方について協議・検討を行い、23年3月に答申を受けた。						
		①効率性 ○ ②妥当性 ○ ③有効性 ○ ④公平性 ○		⇒	□A □B □C □D □E			
	事業の概要							
		①効率性 ○ ②妥当性 ○ ③有効性 ○ ④公平性 ○		⇒	□A □B □C □D □E			
	事業の概要							
		①効率性 ○ ②妥当性 ○ ③有効性 ○ ④公平性 ○		⇒	□A □B □C □D □E			
	事業の概要							

中事業の評価結果

事業診断(課長評価)							
H22年度の課題	腰越漁港の改修整備工事は国県の補助が当初計画より減額されるなど、全体工程に遅れが生じている。鎌倉地域の漁港建設については鎌倉漁港対策協議会における一定の方向性のとりまとめが必要である。また、人員配置等の実施体制の強化が必要である。						
課題解決のための取組	腰越漁港の改修整備工事は国県補助金の追加内示などにより全体工程の約5割まで完成することができた。鎌倉地域の漁港建設については鎌倉漁港対策協議会を6回開催し、答申を受けることができた。23年度から実施体制は職員1名増の要望が認められた。						
未解決の課題	腰越漁港の改修整備工事について全体工程に遅れが生じているため、平成24年度完成が厳しい状況となっている。鎌倉地域の漁港建設については鎌倉漁港対策協議会から答申を受けるなど一定の成果を得たが、今後、市民の合意形成を図るための施策を進めていく必要がある。						
今後の方針	腰越漁港の改修整備工事は、事業期間の延伸も視野に入れながら国県の補助金確保のための調整を県と鋭意進めていく。鎌倉地域の漁港建設については、答申や検討成果等を基に、市民の合意形成を図るための施策に重点を置き進める。						
今後の方向性	A:充実・拡大 B:現状継続 C:改善・見直し D:統合縮小 E:廃止・休止	⇒	A	※ □事業完了	課長名	花上 和也	

個別事業の概要

(単位:千円)

小事業名	ザイムスコード	個別事業名	22年度予算	22年度決算値	個別事業の評価結果	
漁港施設管理事業	主な個別事業	367 腰越漁港指定管理者選考委員会委員報償費	104	94	■適切	□見直し余地あり
		367 漁港施設等維持修繕料	400	287	■適切	□見直し余地あり
		367 腰越漁港指定管理料	378	378	■適切	□見直し余地あり
		367 漁業施設等整備業務委託料	1,800	1,349	■適切	□見直し余地あり
漁港施設整備事業	主な個別事業	370 水産公共工事システム運用支援委託料	1,000	998	■適切	□見直し余地あり
		370 腰越漁港改修整備事業環境モニタリング調査委託料	4,700	2,289	■適切	□見直し余地あり
		370 腰越漁港改修整備事業実施設計業務委託料	0	1,554	■適切	□見直し余地あり
		370 水産公共工事システム利用料	800	798	■適切	□見直し余地あり
		370 腰越漁港改修整備工事費	339,850	195,020	■適切	□見直し余地あり
		370 社団法人水産土木技術センター負担金	100	100	■適切	□見直し余地あり
鎌倉地域漁港対策事業	主な個別事業	1330 鎌倉漁港対策協議会委員報償費	84	176	■適切	□見直し余地あり
		1330 平成22年度鎌倉地域漁港建設基本構想策定に関する支援業務	8,000	6,000	■適切	□見直し余地あり
	主な個別事業				□適切	□見直し余地あり
	主な個別事業				□適切	□見直し余地あり
	主な個別事業				□適切	□見直し余地あり